

平成 17 年度 とやま環境チャレンジ 10 の実施結果について

平成 18 年 3 月 23 日
環 境 政 策 課
(財)とやま環境財団

富山県と(財)とやま環境財団では、地球温暖化防止に向けた県民意識啓発事業の一環として、「とやま環境チャレンジ 10」を小学校、地球温暖化防止活動推進員及び市町村と連携して実施しています。

今年度は、県内**27 校(全市町村)**の小学校 4 年生**1,098 人**が参加し、地球温暖化に関する授業を受けた後、家族と協力しながら、「使っていない部屋の電気を消す」、「水を出しっぱなしにしない」などの家庭での地球温暖化対策**10 項目**を**10 週間**取り組みました。

事後アンケートでは、とやま環境チャレンジ 10 を通じて、地球温暖化問題や省エネルギー・省資源のライフスタイルへの意識が高まったという家族が 85%、また 10 週間の取り組みにより、習慣化した取り組みがあるという家族が 75%であり、児童とその家族の環境に配慮したライフスタイルに対する意識啓発、生活の中での具体的な取り組みの定着など、一定の成果があったと考えられます。

1 とやま環境チャレンジ 10 事業について

(1) 目的

県内の**10 歳**の児童(小学校 4 年生)が、家族とともに設定した家庭における**10**の温暖化防止プログラムを**10 週間**実践し、一定期間ごとに自己評価するという一連の取り組みを通じて、環境に配慮したライフスタイルを意識し、地球温暖化に対する家庭での児童及び家族の取り組みの推進を図る。

(2) 事業の流れ

- (ア) 地球温暖化防止活動推進員 が、各小学校において環境チャレンジ教室(地球温暖化防止に関する授業)を実施。
- (イ) 授業を受けた児童が、家族と相談の上、家電の主電源をこまめに切る、水を出しっぱなしにしないなど、家庭で実践する地球温暖化防止対策を 10 項目選択し、目標を設定。
- (ウ) 各児童が中心となって、家族とともに決定した取り組みを 10 週間実践し、また、一定期間毎に自己チェックを行う。
- (エ) 最後に各校の実施結果を取りまとめ、「チャレンジ 10 通信」として各児童に配布し、今後の取り組みの継続を促す。

県が委嘱をし、地域において地球温暖化防止に関する住民への普及啓発、調査、指導及び助言等を行う。

2 実施結果概要

(1) 参加者

県内**27 校(全市町村)**の小学校 4 年生**1,098 人**及びその家族が参加。

富山市	堀川小学校	射水市	金山小学校	小矢部市	蟹谷小学校
	光陽小学校		大門小学校	南砺市	井口小学校
	古沢小学校		下村小学校		福光西部小学校
	大久保小学校		大島小学校	舟橋村	舟橋小学校
	鷓坂小学校	魚津市	大町小学校	上市町	陽南小学校
高岡市	太田小学校	氷見市	宇波小学校	立山町	利田小学校
	戸出東部小学校	滑川市	東加積小学校	宇奈月町	浦山小学校
	福岡小学校	黒部市	三日市小学校	入善町	飯野小学校
射水市	中伏木小学校	砺波市	出町小学校	朝日町	五箇庄小学校

(2) 実施期間

平成 17 年 7 月～18 年 3 月

(家庭における取組み期間 平成 17 年 9 月～12 月の期間の内、10 週間)

(3) 児童の取組み結果

参加した児童 1,098 人のうち、活動報告があった955 人の結果を取りまとめたところ、次のとおりだった。

児童がチャレンジした温暖化防止の取組みについて

事前に示した 24 の取組み例のうち、上位 10 項目の取組みは、別表のとおりである。

「使っていない部屋の電気を消す」、「水を出しっぱなしにしない」、「冷蔵庫をあけている時間を少なくする」の 3 つは、ほとんどの学校で上位 5 項目に入っており、比較的取り組みやすい取組みであると考えられる。

なお、とやま環境チャレンジ 10 に取り組むにあたり、各家庭では、「家族で声を掛け合う」、「家族で係を決めた」など、取組み意識を継続させるための家族間の協力やそれぞれの取組みを効果的に行うための次のような工夫が行われていた。

- ・お湯を無駄遣いしないよう洗面器を 2 つ使った。 ・ごみ箱を増やして分別しやすいようにした。
- ・電気をあまり使わない家電製品を買った。(省エネ製品に買い替えた。)
- ・スイッチがついているコンセントに替えた。
- ・冷蔵庫を整理整頓した、入っている食品をメモ書きしてあける時間を短縮した。
- ・テレビをけし、家族の会話を増やした。 ・季節に合わせて服装を調節した。

取組み効果の推計

児童がチャレンジした取組みの上位 10 項目の取組みが、10 週間、着実に実践されたと仮定すると、CO₂の排出量が約 39t-CO₂削減されるとともに、約 180 万円(活動報告児童数 1 人(1 世帯)当たり 1,882 円-)の節約となると推計される。【別表参考】

計算方法・・・削減効果の推計値 = 件数(チャレンジ児童数)(A) × 削減効果(B)

(参考) 別表

地球温暖化防止の取組み 上位 10 項目		件数 (A)	削減効果(B)		削減効果の推計値	
			10 週間/件		10 週間	
			kg-CO ₂	円	kg-CO ₂	円
1	使っていない部屋の電気を消す	860	8.0	440	6,880.0	378,400
2	水を出しっぱなしにしない	739	1.1	330	812.9	243,870
3	テレビやゲームの時間を減らす	684	3.3	180	2,257.2	123,120
4	冷蔵庫をあけている時間を少なくする	677	1.4	80	947.8	54,160
5	ごみの量を減らす、ごみは分別して出す	523	29.5	-	15,428.5	-
6	洗たくはまとめてする	453	2.3	620	1,041.9	280,860
7	アイドリングをやめる	387	7.2	330	2,786.4	127,710
8	お風呂は家族が続けて入る	375	15.4	1,030	5,775.0	386,250
9	冷蔵庫にものをつめこみすぎない	325	5.6	300	1,820.0	97,500
10	シャワーを 1 回につき 1 分減らす	265	4.2	400	1,113.0	106,000
合 計			78.0	3,710	38,862.7	1,797,870

・・・1,797,870 円 ÷ 955 人(世帯) = 1,882 円

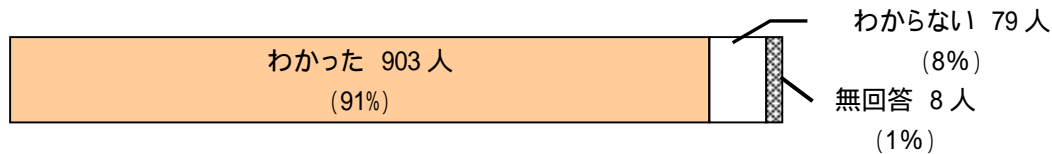
(4) とやま環境チャレンジ 10 を通じた意識変化等 (事後アンケート調査結果概要)

とやま環境チャレンジ 10 実施後、参加者に対し、取組みの感想や地球温暖化問題、環境に配慮したライフスタイルへの意識に関するアンケートを実施したところ、結果の概要は次のとおりである。

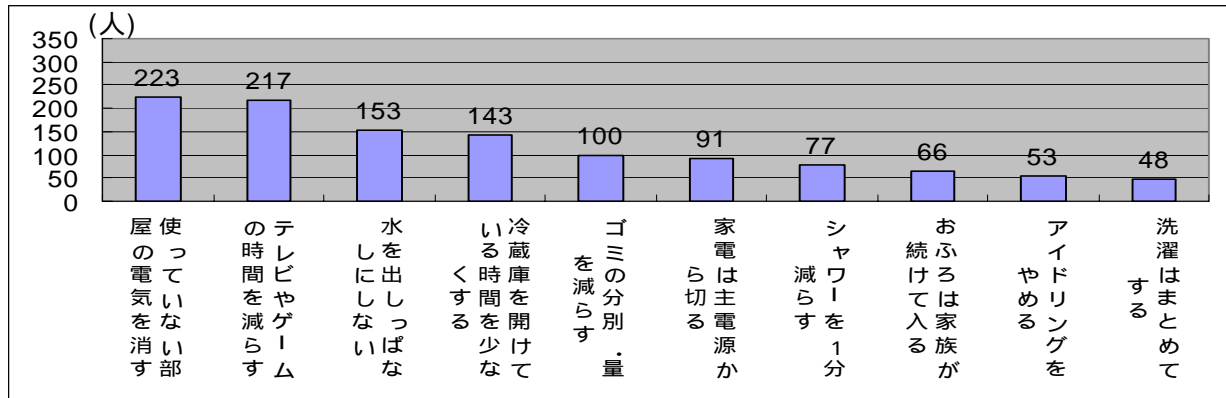
実施時期	平成 17 年 12 月～18 年 1 月 (チャレンジ 10 の取組み期間終了後)
対象者 (回答回収数)	児童 (990 人) 児童の家族 (925 人) 学校担当教諭 (27 人)

児童

地球温暖化とはどのような問題か分かったか、という問いに対して、全体の 9 割以上の児童が「わかった」と回答した。



取組みの中で、最初はできなかったが、10 週間やってみようになった取組みは何か、という問いに対して、回答数が多かった上位 10 項目は次のグラフのとおりである。

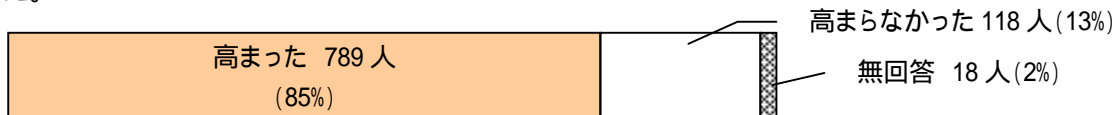


これからも地球温暖化を防ぐ取組みを続けていくか、という問いに対しては、85%の児童が「続ける」と回答した。

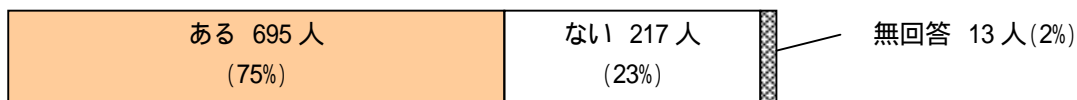


児童の家族 (回答者数: 925 人)

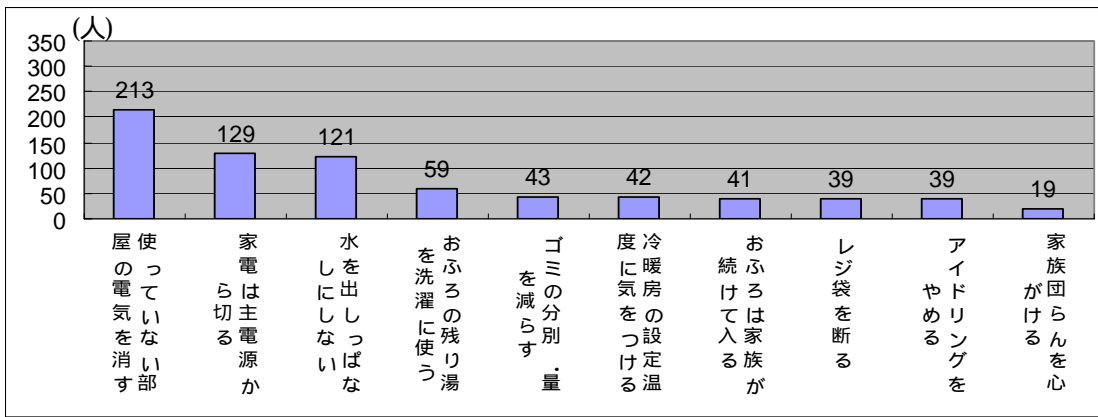
チャレンジ 10 により、児童や家族の地球温暖化問題や省エネルギー・省資源の生活様式の意識は高まったと感じるか、という問いに対しては、85%の家族が「高まったと感じる」と回答した。



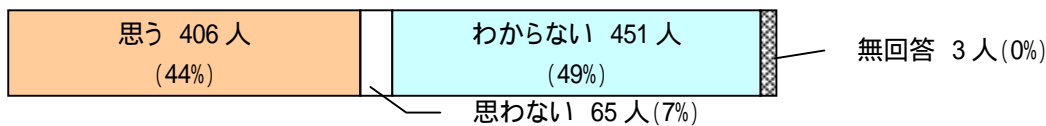
チャレンジ 10 により家庭で習慣化した取組みはあるか、また、ある場合、その取組みは何か、という問いに対しては、75%の家族が「ある」と回答した。



(習慣化した取組み) 回答数上位 10 項目



チャレンジ 10 の取組みにより、電気使用量等が減少し、家計の節約になったと思うか、という質問に対しては、「わからない」と回答した家族が 49%、「思う」と回答した家族が 44%だった。



学校担当教諭 (回答数: 27 人)

授業やチャレンジ 10 の取組みを通じて、児童の地球温暖化等環境問題への関心は高まったか、という問いに対しては、25 校の教諭が「高まったと感じる」と回答した。



(高まったと思う理由)

- ・ 地球温暖化、省エネ、児童の取組みについて話題になることが増えた。
- ・ 環境、省エネ関係の本を読むようになった。
- ・ 教室の電灯や暖房のスイッチをこまめに消すようになってきた。
- ・ 「もったいない」「省エネ」という言葉が聞かれ、電気を消すなど自分にできることをしようとする子どもが増えた。
- ・ こどもたちが電気や水の節約について互いに声を掛け合うようになった。



写真: 環境チャレンジ教室の様子
(平成 17 年 9 月 16 日 立山町利田小学校)

[問い合わせ先: 地球環境係 浦田、武末 (ダイヤル 444-8727、内線 2676)]